



まんだらげ

Vol. 30

2014 AUTUMN

広報誌「まんだらげ」の名称について

和歌山を代表する江戸時代の外科医・華岡青洲が全身麻酔薬として用いた植物「曼陀羅華(まんだらげ)」から引用しています。花に「医」の文字をデザインしたものは、本学の校章にも採用されています。



Photo: 金剛峯寺(高野町)

Contents

特集 / 小児ネフローゼ症候群の治療法見直しへ
TOPICS / スチューデントドクター称号授与式、
オリンピック・パラリンピック包括協定
専門職紹介 / 認定看護師
診療科紹介 / 神経内科、救急科

理念

私達は安全で質の高い医療を提供し、地域の保健医療の向上に貢献します。

基本方針

1 患者さんとの信頼関係を大切にし、安全で心のもった医療を行います。

2 高度で先進的な医療の研究をすすめ、その成果を反映した医療を行います。

3 豊かな人間性と優れた専門技術を持った医療人を育成します。

4 和歌山県の基幹病院として、地域の保健医療に貢献します。

小児ネフローゼ症候群の 治療法見直しへ

～長き国際論争に結論～



記者会見風景

投薬中の副作用が問題となっている難病、「小児ネフローゼ症候群」について、投与期間の短長は再発率にほとんど差がないことが和歌山県立医科大学小児科・吉川徳茂教授らの研究でわかりました。このたびの記者会見では研究プロセスや結果とともに、治療ガイドラインが見直されることを発表しました。

日本で年間約1000人が発症する原因不明の難病、小児ネフローゼ症候群は尿に大量のタンパク質が漏出するために血中タンパク質は低下し、全身に著明な浮腫(むくみ)が起こります。

治療法として1960年代に国際小児腎臓病研究班が提唱した2カ月のステロイド治療(国際法)があげられますが、尿タンパクは消失するものの、一旦ステロイド治療を中止すると大量のタンパク質漏出が再発してしまいます。再発予防には3カ月から12カ月のステロイドの長期投与(以下、長期投与法)が行われますが、身長が伸びないなどの成長障害



吉川 徳茂 教授

和歌山県立医科大学小児科教授
国立成育医療研究センター社会・臨床研究センター長

のほか、肥満、高血圧、緑内障、白内障、骨粗鬆症などの副作用が大きな問題になっていました。

和歌山県立医科大学小児科の吉川徳茂教授、同小児科の中西浩一講師らは、長年にわたって研究・議論されてきた「2カ月の国際法か？長期投与法か？」に決着をつけるために2003年にプロジェクトチームを結成。全国150施設で臨床試験を行い、両方を比較した結果、再発率に差は無いことを証明しました。

7月29日に行われた公立大学法人和歌山県立医科大学と独立行政法人国立成育医療研究センターの共同記者会見で、吉川教授は「2003年から始めた



中西 浩一 講師

和歌山県立医科大学小児科講師



佐古 まゆみ 医師

国立成育医療研究センター
社会・臨床研究センター
開発企画部臨床試験推進室



川村 陽子さん

患者・家族代表

共同研究と臨床試験の結果、国際法が長期投与法に劣らないことが検証され、長き国際論争に終止符を打つことが出来ました。世界で最も権威のあるコクランレビューや国際腎臓学会ガイドライン、日本小児腎臓病学会からも治療法を改定するとの連絡がありました。これにより国内外の小児ネフローゼ症候群の治療ガイドラインが見直され、今後は2カ月治療が中心となっていくことと思います。副作用や患者とその家族の負担も軽減されることでしょう」と報告しました。

また、患者・家族代表として新宮市在住の川村陽子さんが、2歳で小児ネフローゼを発症した長男の治療経過を報告しました。

川村さんは「何回も再発を繰り返し身長が伸びない、食欲増進、ムーンフェイスなどのステロイド治療の副作用と戦いながら頑張りました。高校2年になった今では身長が178cm、体重が65kgで元気に野球に打ち込んでいます。周囲の方々に温かく接してもらえたことが何よりもうれしかったですね。挑戦することをあきらめないで、これからも前向きに進んでいきたい」と話しました。

研究代表者コメント

小児のネフローゼ症候群は2か月のステロイド投与法(国際法)が提唱されるまでは、多くの患者さんが命を落とす病気でした。

国際法により、命に関わることは大幅に減少したものの再発を繰り返すことが問題であるため、多くの医師たちがいろいろと治療法を変更し、私どもはこれまで一貫して国際法を用いており、この方法での小児ネフローゼ症候群の治療は病気の最初の治療として十分であると考えてきました。

今回その事を科学的に正しい方法で証明することができました。

これにより、国内外の治療指針が改定され、多くの患者さんに、より良い治療を受けていただくことが期待されます。

和歌山県立医科大学小児科教授
吉川徳茂



【和歌山県立医科大学 平成26年度Student Doctor 称号授与式】 医学部5年生105人に認定証と白衣を授与

病院で約1年間の臨床実習を行う医学部生に、医療の現場に入る自覚を持ってもらい、医学部と病院が臨床実習を支援することを目的とした「Student Doctor (スチューデントドクター)称号授与式」を5月28日に本学講堂で開催しました。

医学全般の知識・実技の試験に合格した医学生が臨床実習を行う資格として、全国医学部長病院長会議が認定するもので、大学や病院関係者、家族らが見守るなか、医学生5年生105人が認定証と本学のロゴマークの入った白衣を受け取りました。

岡村吉隆学長が式辞を述べたあと、吉田宗人病院長と岡本恭子看護部長らが訓辞を述べました。

最後に、医学生を代表して宮村保吉さんが「医学人としての誇りと社会的責任を持って、積極的に日々研鑽に励むことを誓います」と決意表明しました。

式典について吉田病院長は「いつもより締まった



岡村学長に決意表明する学生



学生に訓示を述べる吉田病院長

学生の顔と親御さんの嬉しそうな顔を壇上から眺めると、臨床実習の意義や研修を始めるにあたって学生たちの自覚を新たに喚起することの意義を実感させられました。授与式は、学生たちにとってこれから始まる臨床実習、またその先にあるキャリアについて改めて考える良い機会となった様子でした。」と話しています。

東京オリンピック・パラリンピック組織委員会と大学連携協定締結

本年6月23日、和歌山県立医科大学を含めた552の大学及び短期大学が、一般財団法人東京オリンピック・パラリンピック組織委員会と大学連携協定を締結しました。

この協定は、2020年東京オリンピック・パラリンピック大会の成功に向け、大学と組織委員会がそれぞれの資源を活用し、オリンピック教育の推進や大会機運の醸成等大会に向けた取組を進めるため、相互に連携・協力体制を構築することを目的としています。

協定の締結式は、東京都内の早稲田大学大隈記念講堂で行われ、本学から岡村吉隆学長と、みらい医療推進センターげんき開発研究所の三井利仁副所長が出席しました。

本学の附属病院が「日本パラリンピック委員会推薦メディカルチェック医療機関」に指定(平成24年7月1日)されていることや、みらい医療推進センターが文部科学省から「障害者スポーツ医科学研究拠点(共同利用・共同研究拠点)」として認定(平成25年4月23日)されていることなどから、これまでの研究実績や取

組を活かし、選手たちの競技力向上に向けたスポーツ医科学分野でのサポートを行ってまいります。



自分で選択する“新たな医療”の時代へ

～日野原重明氏が市民公開講座で講座～

7月19日に本学講堂で「第46回日本医学教育学会大会」が開かれ、一般財団法人聖路加国際メディカルセンター理事長の日野原重明氏による講演が行われました。定員を超える400人以上の申し込みがあったため、当日は別会場で中継も実施。多くの人々の注目を集めました。

講演で日野原氏は、“上手な医療の受け方～医師との対応方法”をテーマに、スクリーンを用いて受診時のポイントを分かりやすく紹介。事前に用意しておきたいものや心構えをアドバイス、また、医師とのコミュニケーションの取り方の大切さについても言及。随筆家の幸田文さんと対談した際に、彼女が「よい患者になるためには医師にしっかりと伝えなければいけない。しかし言葉で上手く伝えるのは難しい」と語ったというエピソードも紹介されました。

これからは医師が一方向的に提供するものではなく、患者自らが参加する新たな医療の時代が来るという



当日会場となった和歌山県立医科大学講堂には400人もの参加者が集まりました



日野原氏の分かりやすい説明に、多くの参加者が聞き入っていました



座長を務めた同大教育研究開発センター長の羽野卓三さんから感謝状と梅干しが贈呈されました

日野原氏。“自分で医療を選択する”ことの重要性を理解し、良い医療を選べるようになってほしいと力強く話しました。

なんと今年で103歳になられるとは信じられないほど元気な日野原氏。約1時間の講演のうち15分は立ったままという驚異的な体力を見せ、年齢を感じさせない姿に参加者からは盛大な拍手が起こりました。最後には、最近発売したという自身の書をスクリーンに映し出し、本の宣伝もするなどユーモアを交えた話に、会場からは笑いが起こるなど活気ある講演となりました。

O-armイメージングシステムを導入

平成26年3月に新しく導入したO-armイメージングシステムとは、主に脊椎・脊髄手術で使用される術中撮影用CTで、アルファベットの「O」形のガントリーの中でX線管球とフラットパネルディテクタが360°回転することにより、これまでは手術中に確認が難しかった箇所を、その場で透視画像や3D画像に映し出すことができます。また、患者さんの手術体位の脊椎・骨の位置をリアルタイムで誤差なく表示でき、手術用ナビゲーションシステムと併用して手術操作の位置・骨削除範囲を明確に把握することができます。

これらのシステムを用いることで、脊椎側彎症・高齢者の腰曲がり・脊柱変形・脊椎腫瘍などの手術を、大きな切開をせずにより低侵襲に、正確に行うことが可能となりました。



認定看護師試験合格者紹介

ICU（集中治療室）で勤務を始め10年目を迎えました。ICUには病気や怪我などによる重症患者さんが多く入室されます。私たちは、患者さんの表情や動き、循環器・呼吸器系の細かな変化から、看護上留意すべき課題を捉えるとともに、さまざまな苦痛を緩和することなど、多くの役割が求められます。



集中ケア分野認定看護師

穴井 聖二

このような経験の中で、私は、患者さんの生命と生活の質(QOL)を向上させるためには専門的な知識に基づく看護を提供する必要があると感じ、集中ケア認定看護師の資格を取得しました。集中ケアを必要とする患者さんやご家族に対して、より良い日常生活を支援し、患者さんの利益に繋がる看護を実践し、追及していきたいと考えています。また、看護スタッフへの教育を行い、チーム全体の専門性を高めていきます。

認定看護師として、まだスタート地点に立ったばかりですが、“地域の重症患者は私たちが守る”という気持ちで、ICUの看護力の向上を目指しています。

手術部看護師は、患者さんへの思いやりを大切に、手術中に意識のない患者さんの代弁者となれるよう、専門的な看護を実践しています。術前では心理的・身体的な準備を支援し、術中は褥瘡や神経障害、手術部位感染、体内遺残などの二次的合併症を予防す



手術看護分野認定看護師

坪井 有加里

るため、体位・体温管理、感染予防、手術機材・機器の適切な管理などをおこなっています。さらに、病棟・外来看護師、他職種との連携を図っています。

手術看護分野認定看護師の役割は、周手術期患者に対して、手術による侵襲を最小限にし、よりよい回復を目指して手術看護を実践すること、手術を安全かつ円滑に遂行するためにコーディネートすること、周手術期の分野で働く看護師に対して指導・相談をおこなうことです。

患者さんや家族が、より安全に、安心して手術を受けることができる、ここで手術を受けてよかったと思ってもらえるよう、手術部スタッフとともに力を合わせてまいります。

潜在看護師向け研修のお知らせ

結婚や出産等さまざまな理由で職場を離れた看護師さん(潜在看護師)の職場復帰をお手伝いする研修プログラムを実施します。

内容は「最新の医療・看護の動向」「医療安全」「感染予防」「メンタルヘルス」の講義と採血、輸液ポンプの取り扱い等の看護技術演習です。

講義と技術演習を通して、復帰にあたっての悩みや不安を解決しましょう!

当院への就職を希望する方には研修終了後に病院見学・復帰相談の時間を設けております。

当日のスケジュール、申込み方法等は当院看護部のホームページをご覧ください。

日時 11月13日(木) 10時～16時

場所 和歌山県立医科大学 高度医療人育成センター

対象 看護師資格を持っており、
現在仕事から離れておられる方

費用 無料

締切 11月7日(金)





診療科紹介

神経内科

頭痛、しびれ、ふるえなど
身近な症状を担当します

教授:伊東 秀文

神経内科は精神疾患を除くすべての神経疾患を治療する診療科です。私たちが手足を動かしたり、見て聞いて触れて外界のものを感じるという働きは、すべて脳から脊髄、末梢神経、筋肉に至る、全身に張りめぐらされた神経を介して行われます。そのため神経内科が扱う疾患は幅広く、外来には頭痛・めまい・しびれ・ふるえ・ふらつき・力が入らないといった、身近な症状でお困りの患者さんがたくさん来られます。



私たちはまず、患者さんのお話を詳しく伺い、診察で病変部を推定した上で、血液検査やMRI等の画像検査、電気生理学的検査で診断を確定します。神経内科疾患の多くは、正しく診断して最新の治療を行えば症状をよくできます。外来担当医はほとんど日本神経学会認定専門医であり、世界的に最先端の治療を皆様に提供できるよう日々努力しています。心配な症状がございましたら、ぜひ神経内科を受診してください。

救急科

県全域から重症救急症例を
受け入れ集中治療管理を行います

教授:加藤 正哉

救急・集中治療部では和歌山県全域を対象として、緊急度の高い疾病や重篤な外傷、その他の重症救急患者を24時間体制で受け入れ、救命処置、緊急手術、集中治療管理を行っています。

他の病院や診療所で診察の結果、緊急に高度な治療が必要と判断された方や、救急隊が現場で重症と判断し、搬送してこられた患者さんは、病院1階の救急外来処置室(ER: Emergency Room)で直ちに救急専門医と院内各専門診療科から派遣された複数の医師や救急専任の看護



師によるチームで診療を行います。患者さんが一刻を争う状態で、手術室や放射線検査室まで移動できない場合には、昨年新しくERに併設された多目的血管撮影室内で緊急手術やカテーテル治療を行い、状態が安定してから改めて根本的な治療を行った後に、4階の集中治療室(ICU)や重症救急病棟(HCU)に入院して頂いて、集中治療の専門医チームに治療を引き継ぎます。

■平成26年第16回和歌山県皮膚ガン無料相談・講演会のご案内

○11月22日(土) / 田辺市 ガーデンホテルハナヨ 2階松竹の間

「皮膚がんについて」貴志知生先生(海南医療センター皮膚科医長)

○11月29日(土) / 和歌山市 和歌山ビッグ愛 1階大ホール

「和歌山の皮膚ガン死ゼロを目指してー

「見えるガン」皮膚ガンは、自分で早期発見できます!!

米井希先生(公立那賀病院皮膚科科長)

※いずれも午後1時から特別講演、2時から4時まで皮膚ガン無料相談

【お問い合わせ専用ダイヤル】

080-2448-2686 (10~16時)

共催:和歌山県皮膚科医会・和歌山市医師会皮膚科
部会・和歌山県立医科大学皮膚科学教室 他

後援:和歌山市・田辺市

予約センターからのお知らせ ～診察予約のご案内(初めて受診される方)～

当院の外来受診は、原則として「**予約制**」とさせていただきます。
ご予約は、できるだけかかりつけの医療機関などからFAXでお申し込みください。

■医療機関からのご予約

- ① **かかりつけの医療機関などから当院所定の「予約申込書」**にて地域連携室にFAX送信してください。
- ② 20分以内を目途に予約をお取りし、予約日時・医師名を記載した予約票を発信元の医療機関にFAX返信いたします。
- ③ 予約当日は、**予約票・紹介状・保険証・診察券(受診歴のある方)**をご持参のうえ、**外来受付**に直接お越しください。

地域連携室

FAX番号: 073-441-0805
受付時間: 月～金 9:00～17:00
(土・日・祝日・年末年始を除く)

※毎週金曜日は試行的に18:00まで受付しています。

■ご本人からのご予約

- ① **かかりつけの医療機関などで紹介状**をご用意ください。
※特定の医師による診療をご希望の場合は必ず「〇〇科 〇〇医師」と明記した紹介状をご用意ください。
- ② 「**当院予約センター**」に直接お電話ください。
- ③ 予約当日は、**紹介状・保険証・診察券(受診歴のある方)**をご持参のうえ、**外来受付**に直接お越しください。

電話予約センター

電話番号: 073-441-0489
受付時間: 月～金 8:30～16:00
(土・日・祝日・年末年始を除く)

※電話だけでなく9:30～17:00まで院内の予約窓口も開設しています。

看護師・助産師募集中

※募集等詳細につきましては当大学ホームページをご覧ください。
または下記までお問い合わせください。

和歌山県立医科大学附属病院では看護師・助産師を募集しています。

TEL 073-441-0711 (事務局総務課)
<http://www.wakayama-med.ac.jp>
公立大学法人和歌山県立医科大学 和歌山市紀三井寺811-1

病院ボランティア募集

みなさまの温かいお力をお待ちしております。

外来または病棟で、患者さんが安心して治療を受けることができるようボランティアの方を募集しています。

活動時間

外来①: 8時50分～11時30分
外来②: 11時50分～14時50分
病棟: 病棟と調整の上決定します。
(活動時間はいずれも調整可能です。)

※対象: 平日に活動して下さる18歳以上の方
詳細はお問い合わせください。

問い合わせ先

和歌山県立医科大学附属病院
代表: 073-447-2300
医事課 ボランティア担当

患者さんの権利

当院では、受診される皆様が、以下の権利を有することを確認し、尊重します。

- 1 個人として尊重され、平等に良質な医療を受ける権利があります。
- 2 診療に関して、十分な説明と情報を受ける権利があります。
- 3 十分な情報を得た上で、自己の意思に基づいて医療を受け、あるいは拒否する権利があります。
- 4 他の医療者の意見(セカンドオピニオン)を求める権利があります。
- 5 個人情報やプライバシーを保護される権利があります。

※当院では、患者さんの安全を守ることを第一に診療を行っておりますが、他の患者さんや職員への暴力・暴言・大声・威嚇などの迷惑行為があった場合は診察をお断りすることや退去を求めることがあります。著しい場合は警察に通報いたしますのでご了承ください。

患者さんへのお願い

当院では、さまざま医療を提供しておりますので、次のことを十分ご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

- 1 適切な医療を実現するために、患者さんご自身の健康に関する情報をできる限り正確にお話してください。
- 2 医療に関する説明を受けられて理解できない場合は納得できるまでお聞きください。
- 3 治療上必要なルールはお守りください。また治療を受けていて不安を感じましたらすぐにお知らせください。
- 4 すべての患者さんが適切な医療を受けられるようになるため、他の患者さんのご迷惑にならないようご協力ください。
- 5 当院は教育・研究機関でもありますので、医学生・看護学生などが実習や研修を行っております。ご理解とご協力をお願い申し上げます。